

令和8年度学校評価報告書（目標設定）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を進めるとともに、地域に開かれた教育課程を編成する。	①個別最適な学びと協働的な学びについて研究を進める中で、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を実践する。 ②学部間で協力し、校内での交流を計画的に行う。学部ごとに地域資源の活用状況をまとめる。	①-1 個別最適な学びや協働的な学びを実現させるために、活動システムを定着させるとともに、意思決定支援を取入れた実践に取り組む。 ①-2 授業の実践を行い、お互いの授業を見合うことで、日頃の授業を見つめ直し授業改善につなげる。 ②昨年度実施した校内外の交流および共同学習について、年間計画に位置付ける。学部ごとに地域資源の活用状況をまとめる。	①-1 活動システムを定着させることができたか。また、意思決定支援を取入れた実践に取り組むことができたか。 ①-2 授業の実践を行い授業改善につなげることができたか。 ②校内昨年度実施した校内外の交流および共同学習について、年間計画に位置付けたか。学部ごとに地域資源の活用状況をまとめることができたか。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	児童・生徒のニーズに応じて指導できるようにICT機器の活用等を含め、校内指導体制を整備し、指導・支援を行う。	①児童・生徒のニーズに応じて、チームで組織的・継続的な支援ができるようにする。 ②児童・生徒のニーズに応じて、タブレット等のICT機器の活用を進め、教育内容の充実を図る。	①4月当初にケース会の運営について係内で研修会を実施し、より良い支援策を皆で考える。 ②電子黒板等を活用した取組みを学部間で共有し、児童・生徒のニーズにあった支援を進める。	①より良い支援策を皆で考えることができたか。 ②電子黒板を活用した取組みを学部間で共有し、児童・生徒にあった支援を進めることができたか。
3 進路指導・支援	保護者や関係機関と連携し、児童・生徒の将来に向けての進路指導・支援を充実させる。	①小学部の段階から教員間で共通認識をもって進路指導・支援を行う。 ②保護者の進路説明会や見学会等を通し保護者への情報提供を十分に行う。	①本校の進路指導・支援について、進路ガイドブック等を活用した研修等を継続し、日頃の授業が卒業後にどう結びついているかを振り返る。 ②保護者が参加しやすいよう進路説明会等の日程調整を行い事業所見学の案内を計画的に行う。	①研修を通して日頃の授業が卒業後にどう結びついているかを振り返ることができたか。 ②説明会、見学会を通して情報提供を行うことができたか。
4 地域等との協働	共生社会の実現のためにセンター的機能の活用促進を図るとともに、地域と連携した活動を推進する。	①地域のセンター的機能としての役割を果たす。 ②学校の様子を発信する等、地域の理解を深められるようにする。	①センター的機能の活動状況を職員全体で共有する。 ②オープンなかはらデーや公園清掃等を通じて地域に知ってもらう機会の周知を実施し相互理解を進める。	①センター的機能の活動状況を職員全体で共有することができたか。 ②オープンなかはらデーや公園清掃等を通じて地域に知ってもらう機会の周知を実施し相互理解を進めることができたか。
5 学校管理 学校運営	児童・生徒の安心安全な教育環境を整備し、信頼される学校づくりを行う。	①教室を含めた校舎内の環境美化を進める。 ②同僚性を発揮し、風通しのよい職場づくりを促進することで事故不祥事の防止の徹底を図る。 ③児童・生徒の人権を尊重し、安心安全で居心地の良い学校生活になるようにする。	①-1 1月1回程度教室を含めた校舎内の整理整頓日を設け職員全員で取り組む。 ①-2 各係で業務計画書（グループ業務引継ぎ表）を作成し、チームで協力して取り組むとともに、グループ内で業務内容を共有し理解を進める。 ②定期的に不祥事防止会議を行い、教員の意識づけを図る。ヒヤリハット報告やアクシデント報告について傾向と分析を行い教員間の情報共有を徹底する。 ③人権尊重を推進する一つとして「さん」付け呼称を徹底する。年度初めに「さん」付け呼称の意義や人権を尊重した関わりについて共通理解を図り、定期的に振り返りの機会をもつ。「人権が尊重された授業づくり」のチェックリストを使用する。	①-1 1月1回程度教室を含めた校舎内の整理整頓日を設け職員全員で取り組むことができたか。 ①-2 各係で業務計画書（グループ業務引継ぎ表）を作成し、チームで協力して取り組むとともに、グループ内で業務内容を共有し他のチームの業務の流れを理解することができたか。 ②定期的に不祥事防止会議を実施するとともに、ヒヤリハット報告やアクシデント報告について傾向と分析を行い、事故不祥事を起こすことなく学校運営ができたか。 ③学校全体で「さん」付け呼称と丁寧な関わりを確実に行うことができたか。また、定期的に振り返りの機会を持ち、意識を高めることができたか。

